

「藤寿苑」オープン

市内で初めて在宅老人の

デイ・サービスセンター

特別養護老人ホーム「白銀荘」内に、十一月一日、市内で初めて在宅老人を対象としたデイ・サービスセンター「藤寿苑」(藤原一繁理事長)がオープン、通所者や関係者約三十人がテープカットなどで開所を祝いました。



医師や看護婦による健康相談

象。寮母一人など専従三人、兼任六人のスタッフで、入浴や食事、健康相談、日常動作訓練などを行うことになっており、一日十五人を限度に一週間交代、利用者の負担は一日五百円です。高齢者が増える中で、在宅福祉充実のために大きく貢献するものと期待されています。

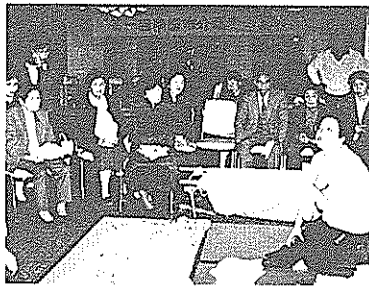
オープン初日の利用者は六人。「白銀荘」一階にあるセンターで、利用説明を受けた後、早速血圧測定などの健康チェックを受けていました。

藤原理事長は、「行き届かない点も多いと思うが、明るいデイ・サービスセンターにしていきたい。将来は、介護者教室を開くなど、家庭介護の充実に寄与していきたい」と話していました。

また、オープンに先立ち、福祉事務所では十月十六日に通所バス「まほろば号」を購入。リフトを付け、車いすでも気軽に利用できるようにしています。

センターに通所ご希望の方は、藤寿苑か市役所福祉事務所社会係(☎2111内線161)までご相談ください。

家庭介護を 考える 第1回介護者の集い



保健婦さんの介護実技

第一回南国市介護者の集いは十二月二日、浜すし会館で関係者ら約三十人が出席して開かれました。

この集いは、寝たきりの老人を抱える家庭の皆さんに介護の在り方、介護の方法などより高

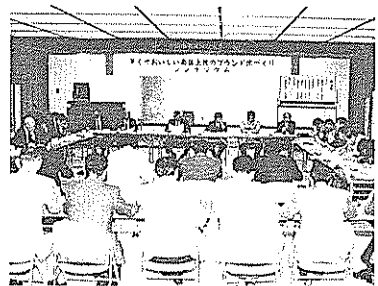
度な技術を身につけ、今後の介護に役立ててもらおうと、市社会福祉協議会と市福祉事務所が主催して初めて行われたものです。

市内には約七十人の在宅介護者がいますが、この日は十四人の皆さんが出席。食事、入浴など介護についての注意事項の説明や、保健婦の皆さんによる日ごろの経験に基づいた排せつ時の工夫などの介護実技が行われました。

その後、日ごろの苦勞をねぎらい懇親会が開かれ、介護者同士の親ばくを深めました。

ブランド米づくり で生き残りを コメ・シンポ開催

「早くておいしい南国土佐のブランド米づくり」を考えようと、十一月十三日、市農協で、農協や経済連など関係者約五十人が参加して、「コメ・シンポ」が開催されました。



米の販売について意見を交換

これは、米を取り巻く情勢が、市場開放や輸入自由化、産地間競争など、多くの問題を抱えているなか、「早くておいしい」高知県の米を消費者にPR、販売する方策を考え、生き残りを図ろうと、市農業委員会(荻谷哲夫会長)が開いたもの。

シンポジウムでは、戸次義人県農業技術課生産指導班長らがそれぞれの米販売に関する取り組みや問題点を提起。真剣に意見交換が行われました。その中では、今年のナツヒカリ、コシヒカリの販売結果を評価しながらも、各機関の連携、指導体制、生産者と指導機関との意志疎通等、さまざまな問題が提起され、今後はこれらの課題解決が重要であるなどと締めくくられ、閉会しました。